

ヨコハマ市民まち普請事業

第一次提案書



- 注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。
 注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
 注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名	つみれプロジェクト実行委員会
現在の主な活動内容・活動実績	今年度のまち普請事業の提案に向けて結成。 事務局を務めているNPO法人サードプレイスと共に、子どもたちの居場所をテーマにしたシンポジウムの開催、鶴見そーらんフェスティバルなどの地元商店街でのイベントの実行委員を担うメンバーが中心となっている。
提案場所	鶴見区 鶴見中央四丁目
提案名	鶴見の多文化・多世代の共創拠点づくり
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	<p>新築する5階建てのビルの2階の一部（58㎡）に以下のスペースを整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域の人たちの集いの場や居場所、集合場所となるカフェの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・カウンターオープンキッチン（調理台・シンク・コンロ） ・業務用冷蔵庫、冷凍庫、製氷機 ・車いすでも利用できるトイレ、洗面所、授乳スペース、おむつ交換台 ■イベントや様々な活用ができるスペースの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ、ミーティングスペース ・プライバシー確保のためのパーティションの設置 ■コワーキングオフィス <ul style="list-style-type: none"> ・郵便受け、個人情報保管できる鍵付きロッカー ■全体の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房設備、防犯設備、音響設備、照明設備、看板などの店頭設備、木質化 <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約 500 万円</p>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの居場所：楽学会、ミニ子ども食堂 ・親子カフェ：子育て中の親が周りに気兼ねなく食事や相談ができる ・高齢者がいつまでも地域で暮らし続けられる健康増進 ・鶴見在住の外国人や留学生たちと複文化を知る、体験できるイベント ・まちのギャラリー：障害者や子どもたちのアート展・イベント ・おなかま食堂：食や食卓を通じて、鶴見の多様性を感じる機会 ・リビングラボ：地域の課題を話し合い、課題解決に取り組める拠点 ・チャレンジカフェ：子ども若者がチャレンジし、失敗できる場所 ・みんなのオフィス：住所登録のできるコワーキングオフィス
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴見駅東口周辺には地区センターなどの誰でも気軽にいくことができる公共施設がなく、子どもたちが集える場所がない ・外国につながる子どもたちが増えている。日本語の習得や学習のフォローなどの支援や活動を増やそうにも、定期的に使える会議室などのスペースがなく、取り組みの拡充が難しい ・発達障害の子の育てなどによりフルタイムで働くことが難しい。短時間でも働ける場や時間に融通がきくフリーランスとして働く拠点となる場が必要。 ・区への愛着が18区中最下位。それでも人口はまだ増え続けている ・行政などの「相談してください」と掲げているところへ育児や子育ての相談に行くには心理的ハードルがある。気になっていることや悩みを、もっと気軽に相談できる場所が必要
目指す地域の将	・横浜市内で子どもの課題の解決力（子どもの虐待件数、不登校者数、日本語

<p>来像（提案を実現することで、どのような地域にしたか）と考えますか）</p>	<p>の不自由さによる学習遅延、子どもの孤立、発達障害の親の孤立が減る）が最も高い、最も子育てしやすい地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代、多様な文化や背景を持つ人たちとの関りを、豊かさと感じることのできる地域 ・「子どもたち」を軸に活動する、いろいろな職種、背景、思い、スキルを持つ魅力的な多くの人々が活動に協力をしてくれている。その人たちがさらに、チカラを発揮でき生かすことができる共創拠点があることで、より魅力的なまちづくりができるようになる ・アイデアが集まりイノベーションが起こせる ・特に若い世代、子どもたちがまちづくりに参加できる ・区への愛着1位
<p>整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴見銀座商店街：イベント、アンケート実施 ・横浜商科大学：学生や先生たちと協働 まちづくり調査協力 ・鶴見大学ボランティアサークル：学生たちと学習支援、食堂の企画 ・その他、地元のネットワークやこれまで培ってきたつながりを活用して「ヒト」「モノ」「カネ」の支援が受けられる
<p>運営時の協働（運営するとき連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1階にできる保育園：保育相談、一時預かり、イベント実施 ・ABCジャパン、国際交流ラウンジ：多文化、複文化の体験 ・warm place、マザーズカフェ：ワークショップの実施 ・エスプラン：カフェ経営サポート ・横浜商科大学：「場（拠点）」設置の効果 研究・調査 ・鶴見銀座商店街：月1回の商店街イベントでの相互協力 ・鶴見区内の高校：子ども若者の参加
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■場の演出：人が集う場を演出することによって、新たな社会課題への対応についてのアイデアやアプローチが生まれる場所にすることができる ■カフェ型：人々が集う場所を「カフェ」というスタイルで作ることで、コンテンツで人を惹きつけ、参加しやすい演出が可能。より多く幅の広い層へのアプローチができると考えている ■鶴見に熱い思いをもつメンバーの参画：鶴見区の子どものために、自分たちが住んでいる町をもっと面白くするためにという「思い」を持ったメンバーが参画、協力してくれている ■新築ビルの設計段階から関わられる：新しく建てるビルを借りるため、決まった間取りで検討するのではなく、より企画を実現させやすい空間を作ることができる。施工中のビルの見学ツアーなどの実施 ■「産」「官」「学」に加え「地」「社」の連携ができる：地域を拠点とし、ソーシャルセクターの連携で作りに上げていくので、「産」「官」「学」に加え「地域」「社会」の異なるセクターの連携（コレクティブインパクト）が実現できるプラットフォームとなる

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

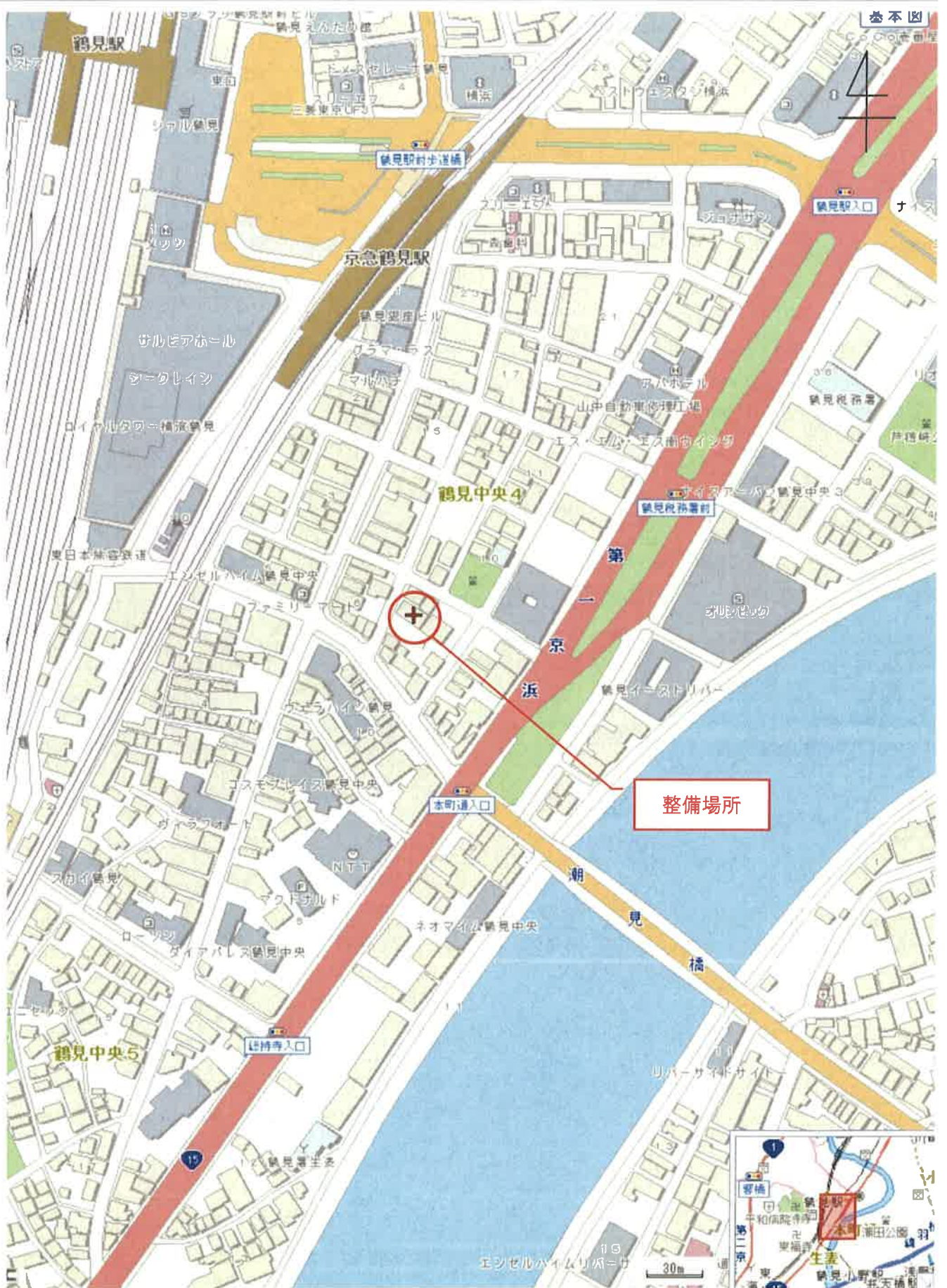
整備場所の地権者等注5）への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
株式会社木曾屋 (建物のオーナー)	全面的に協力 この地域に子育て・子どもの居場所の必要性を感じている。

注5) 土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

位置図

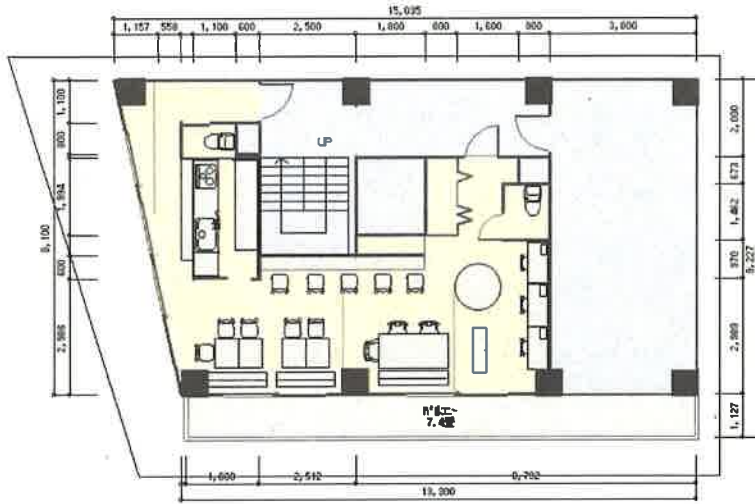


現況写真

※平成 31 年度に 5 階建て新築ビルに建て替え予定



イメージ図

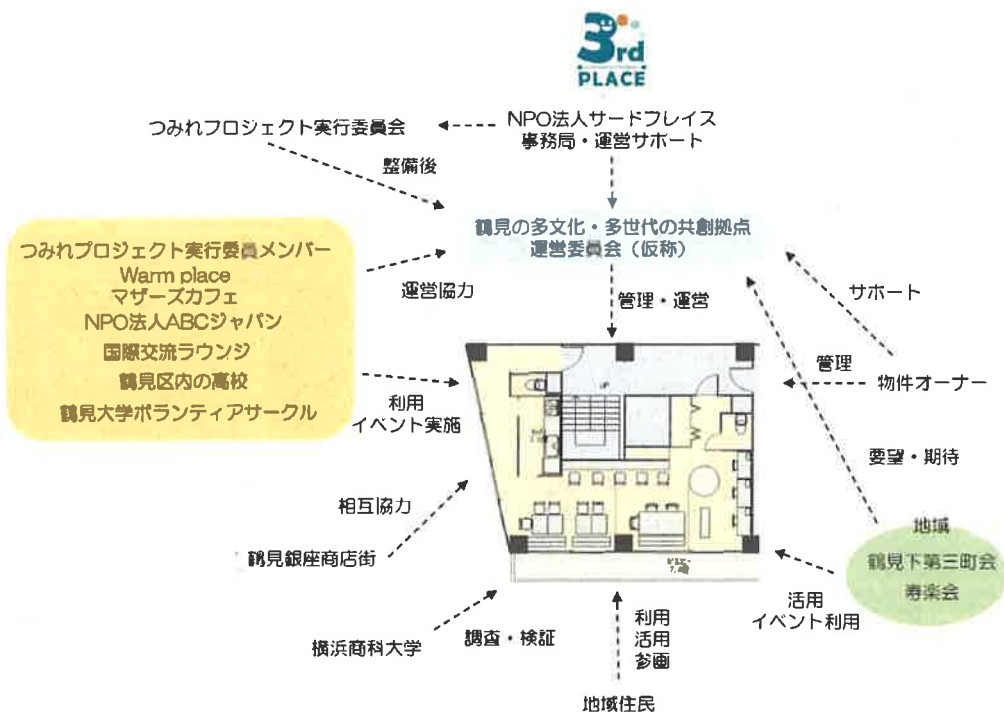
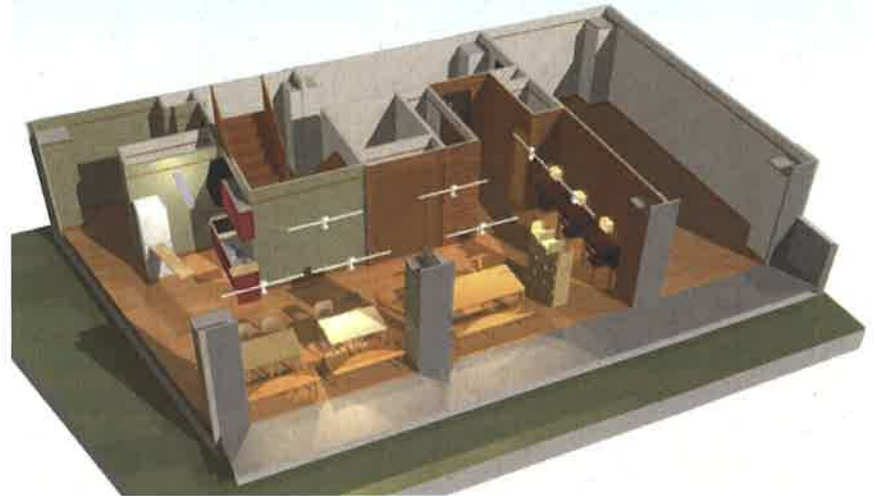


地域の人たちの集いの場や居場所、
集合場所となるカフェの整備

- ・カウンターキッチン、厨房
- ・車いすでも利用できるトイレ
- ・洗面所
- ・授乳スペース、おむつ交換台
- ・木質化された室内
- ・壁は黒板塗料
- ・まちの本棚（ブックオーナー制）

イベントや様々な活用ができるス
ペースの整備

- ・ワークショップスペース
- ・ミーティングスペース
- ・コワーキングオフィス
- ・プライバシー確保のためのパー
テーションの設置
- ・郵便受け→外スペース
- ・個人情報保管できる鍵付きロ
ッカー



活用のイメージ

<p>こどもたちの居場所 子どもたちが放課後過ごせる場所 自遊、自習、学習会、ミニこども食堂</p>	<p>親子カフェ 乳幼児や親限定のオープン日 周りのお客様に気兼ねなく食事ができる</p>	<p>健康増進 高齢世代の集い 薬剤師、ケアマネジャーの協力によるセミナー</p>	<p>ワールドイベント 在鶴見の外国人、留学生企画のイベント 複数の文化に触れる</p>
<p>まちのギャラリー 障害者や子どもたちのアート展、アートイベント、工房</p>	<p>おなかま食堂 同(おな)じ釜(かま)の飯を食うお仲間(おなかま)づくり。</p>	<p>みんなのオフィス 電源、wi-fiのある仕事スペース 住所、ポスト、ロッカー コワーキングオフィス</p>	<p>リビングラボ 他世代、多文化の対話の機会 トークフォークダンス</p>
<p>ワークショップ 体験、体感、学習ができるスペース 教室開催、貸室、セミナー、大人の部活動</p>	<p>チャレンジカフェ 子ども、若者、高校生、大学生たちが「失敗できる」社会体験の場</p>	<p>保育園との連携 1階に保育園ができる 一時預かりを活用した夫婦の時間の提供、育児講座</p>	<p>他団体との連携 同じビルに入居する団体、事業者との連携 イベントの共同実施</p>
<p>窓口としての機能 相談、フードバンク、制服リユース、振袖バンクなど</p>	<p>地域との連携 町内会定例会に出席(月1回) 整備の進捗やイベントの案内 寿楽会への参加：地域のシニアの集まりに参加 地域ニーズなどの聞き取り</p>		<p>商店街との連携 イベントへの相互協力</p>
			<p>整備事業の評価 効果・変化・調査・研究</p>

運営方法のイメージ

	月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6	7
午前							
午後							
夜							
	8	9	10	11	12	13	14
午前							
午後							
夜							
	15	16	17	18	19	20	21
午前							
午後							
夜							

時間帯で実施内容を区切り利用する人にもわかりやすいように明示する。

例) 1日 午前：親子カフェ
午後：学習支援
夜：チャレンジカフェ

12日 午前：English Café
午後：フリースペース
夜：主催イベント

21日 午前：レンタルスペース
午後：レンタルスペース
夜：地域団体のイベント

運営財源確保の方法

